

2026年4月17日

各位

投資専門誌「株主手帳」 山口社長インタビュー記事広告掲載のお知らせ

あすか製薬ホールディングス株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:山口 惣大、以下当社)は、青潮出版株式会社(代表者:上田 智一)の発行する投資専門誌「株主手帳 2026年5月号」に、代表取締役社長の山口 惣大のインタビュー記事が掲載されましたのでお知らせいたします。

当社の会社概要や企業価値の源泉、中長期での企業価値向上施策などについてご覧いただけます。

詳細につきましては添付の資料をご覧ください。

以上

<お問い合わせ先>

あすか製薬ホールディングス株式会社 グループ経営企画部

TEL:03-5484-8366 mail:kouhou@aska-pharma.co.jp

数字で見えない企業価値、経営者の“本音”で読み解く

株主手帳

2026

5

定価1,000円

2026年5月1日発行 毎月1回1日発行／通巻866号 昭和33年8月6日第3種郵便物認可 昭和32年12月26日 国鉄東局特別扱承認雑誌第199号

地方発の 実力派企業

セーレン（福井県）

ジョイフル本田（茨城県）

富士急行（山梨県）

日本セラミック（鳥取県）

三重交通グループHD（三重県）

オリオンビール（沖縄県）

Japan Eyewear HD（福井県）

ニッポン高度紙工業（高知県）

電算（長野県）



経営者に独自インタビュー

三菱化工機

田中 利一 社長

社内の意識改革が奏功し業績大きく改善
25年度新設「GX事業」が成長ブーストに

あすか製薬ホールディングスはホルモン分野での100年以上の研究開発を土台とする、ホルモン製剤のパイオニアだ。産婦人科領域で5割超、甲状腺疾患治療薬が9割超など、国内でトップシェアを持つ領域を複数保有する。新薬の開発から上市まで10~20年を要するのが製薬産業の宿命であり、同社は創業以来その長期投資型のビジネスモデルと真摯に向き合ってきた。研究開発型企業である同社が見据える「中長期での企業価値向上」について聞いた。

Profile ●やまぐち・そうた 1983年生まれ、神奈川県出身。2008年首都大学東京（現：東京都立大学）大学院理工学研究科修了、20年一橋大学大学院経営管理研究科修了。08年4月日立製作所入社。16年2月あすか製薬入社、取締役として創業研究や開発、事業開発、メディカルフェアーズを担当。21年6月あすか製薬ホールディングス代表取締役専務取締役、あすか製薬代表取締役社長に就任（現任）。25年6月あすか製薬ホールディングス代表取締役社長に就任（現任）。



山口 惣大 社長

研究開発型スペシャリティファーマが描く 中長期での企業価値向上

内科、産婦人科、泌尿器科の技術蓄積が強み スペシャリティファーマが定義する「企業価値」

「御社は医薬品業界の中で、どのような特徴を持つ企業ですか。」

山口 私たちは、内科（消化器・甲状腺）、産婦人科、泌尿器科という女性医療を中心とした3領域に強みを持つスペシャリティファーマです。

創業は1920年で、もともととは食品加工会社の研究部門で、廃棄されていた臓器から医薬品成分を抽出し国内初のホルモン製剤を発売したこと

から始まっています。またこのホルモン製剤の研究開発技術が土台となり、アニマルヘルスや検査事業へと領域を拡大してきました。

「会社として大切にしている価値観は何でしょうか。」

山口 研究から投資の回収までには長い期間がかかりますが、収益性を確保しながらも「人々の健康と社会への貢献」を最優先に、開発投資を継続し事業につなげていく。その価値観は現在も受け継がれています。

「長期的な経営視座を重視」

「御社の企業価値の源泉はどこにあるとお考えですか。」

山口 当社では国内トップシェアの製品を複数抱えており、仮に供給が途絶えれば患者さんの命にも関わります。社会にとって必要な製品を100年以上、品質を確保しながら安定供給し、新製品を継続的に出し続けてきた実績、技術、社会からの信頼。それが企業価値の源泉と考えます。そしてもう一つ、オープンイノベーションが、将来、全てのステークホルダーへ利益を生むための基盤となります。

「研究開発投資はどのような考え方で行っていますか。」

山口 売上高比で約10%、年間50~70億円規模を研究開発に充てています。医薬品開発は10~20年を要するにも関わらず、成功確率は高いとは言えません。1社だけで全リスクと費用を負うモデルは成立しない時代ですので、スタートアップやアカデミアとの共同研究、他社からのパイプライン取得など、オープンイノベーションが当たり前になってき

「中長期視点で全てのステークホルダーへ提供できる価値」

た国内シェアトップである保険適用で処方される低用量ピルなどの安定供給を確保しながら新薬も世に出すことで今後さらに女性の活躍に貢献できると考えます。医薬品に留

5本柱で描く、持続的成長 世界の医療インフラへ

「中期経営計画と、進行中の取り組みについて教えてください。」

山口 26年3月期を最終年度とする現中計では、売上高700億円、営業利益率8%、ROE8%の目標達成が視野に入っています。25年11月に公表した暫定版の次期中計（2026年度スタート）では、医療用医薬品の強化を軸に、アジアを中心としたグローバル展開、世界のパートナーとの創薬プロジェクト、アニマルヘルス、検査・アラウンドピル領域の5本柱で持続的成長の土台を築きます。2035年の長期ビジョンを掲げながらグループ売上高1000億円の早期達成を目指しています。グローバル展開では医薬品市場が毎年7~8%伸長しているアジアにて、ベ

「成長投資と株主還元のパランスについて教えてください。」

山口 研究開発はもちろん、設備・新規事業・人材への投資を重視しており、投資が先行する時期もありますが、それが将来の企業価値を高める取り組みと捉えています。株主還元については、過去40年以上減配なし（記念配当・特別配当を除く）という安定配当の維持を基本としつつ、業績に連動した利益還元も行っています。

「投資家に評価してほしい点と将来像を教えてください。」

山口 当社は短期急成長型で

はなく、持続的に価値を積み上げていく会社です。医療インフラの一部として、継続した研究開発で社会課題を解決しながら価値を提供していく。そういった着実な成長を評価いただきたいと思っています。現在は国内が土台ですが、10~20年後には海外で事業の柱を何本か完成させ、世界の医療インフラの1つになっていきます。

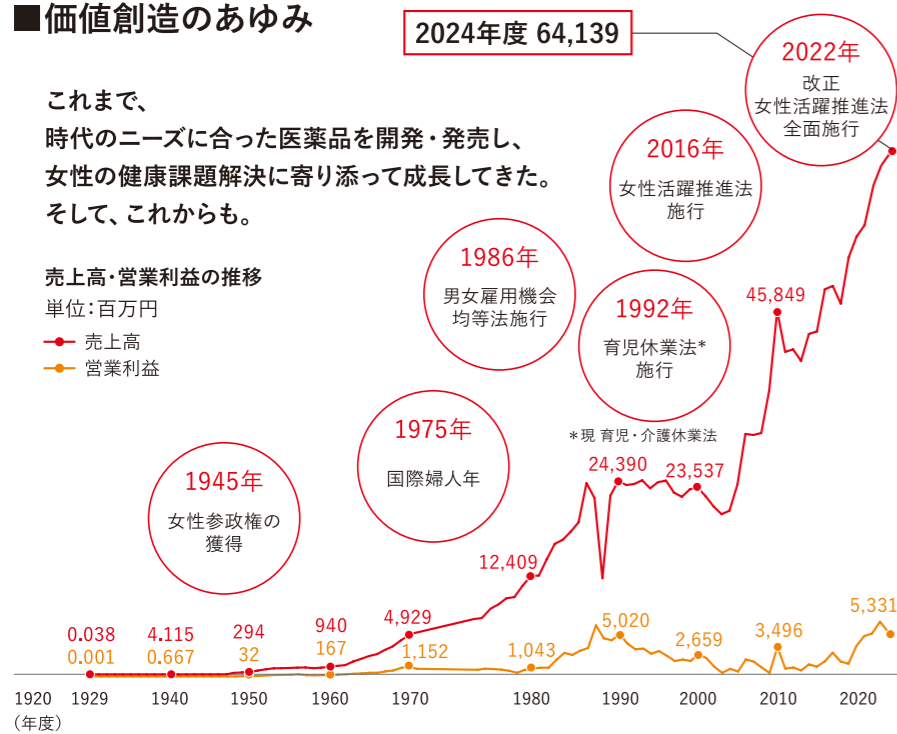
「最後に、株主・投資家へのメッセージをお願いします。」

山口 ホルモン製剤を土台にスペシャリティ領域で磨いてきた強みが、当社の成長の源泉です。社会に必要とされる会社であり続けることを今後も目指していきますので、ぜひ長期投資の対象としてご評価いただけますと幸いです。

■価値創造のあゆみ

これまで、時代のニーズに合った医薬品を開発・発売し、女性の健康課題解決に寄り添って成長してきた。そして、これからも。

売上高・営業利益の推移
単位：百万円
● 売上高
● 営業利益



「最後に、株主・投資家へのメッセージをお願いします。」

山口 当社は短期急成長型で

会社概要

あすか製薬ホールディングス

代表者 山口 惣大
所在地 東京都港区
設立 2021年4月
資本金 11億9,790万円
従業員 1,632名



(2025年3月31日現在)
グループ会社の経営管理およびこれに付随する業務